

平成29年度生野区区政会議(第2回こどもの未来部会)
 いただいた主なご意見・ご提言(要約)と区のお考え方、対応

開催日:平成29年11月2日(木)

場所:生野区役所5階 502・503会議室

| 発言者 | ご提言(要約) | 区のお考え方、対応(要約) |
|-----------|--|---|
| 高岡委員 | 世代間の交流がなかなか難しく、世代間格差も広がっていると思われる。何かを介して、顔をあわせて交流ができる機会があれば世代間のコミュニケーションも活発に進むと思う。 | 地域でそれぞれ実情にあわせて行われている挨拶運動をはじめとした取組は、世代を超えて気軽にコミュニケーションできるための一歩として大変有効であると考えており、区役所としても子どもと大人がともに学べるきっかけづくりなど多世代交流が図れるよう支援していく。 |
| 新井委員 | 朝に通学路で挨拶運動をしている。初めは面識がなくても挨拶することで、今度は向こうから挨拶してくれたりして、わずかなことからコミュニケーションは始まると思う。 | |
| 伊藤(廣)委員 | 東中川地域では、子どもに関わる5つの団体が“子どもネットワーク”を立上げ、『みんなで“子ども”を見守っていこうよ!』、『地域の“子どもたち”と顔見知りになろうよ!』をキーワードに、将来的に町で会ったときに気軽に挨拶してくれる関係をつくっていく取り組みをしている。具体的には月に1回、日曜日に学校を開放し、最低限のルールを守れば、運動場や体育館、多目的ホールで自由に遊びができる活動などを行っている。最初の頃の“子ども”は、現在、大人になっているが、今でも声を掛けてくれる関係が築けている。 | |
| 鈴木区PTA副会長 | ・『子育て支援の情報を知らない方』や『子どもが保育園に入る前でママ友がいない状態で孤立している方』は、非常にしんどいと思う。そういう方にも子育て支援の情報が簡単に周知できる方法を考えていけたら良いと思う | 子育て世帯の孤立解消に向け、昨年11月、子ども子育てプラザにおいて、文字だけでなく、写真やイラストをふんだんに使い、スマートフォンで簡単に閲覧できる「いくのde育〜の」という子育て支援情報のホームページを開設したところであるが、今後とも様々な場を活用した周知・啓発に努めていく。 |
| 村上委員 | 年齢が若く、また子育て中の保護者の方がいきなり地域に出てくるというのは、なかなか難しい。だから若い世代の町会の加入率も少ない。PTA活動は地域活動参加への登竜門だと思うので、今の役員の方は非常に苦労されていると思うが、一人でも多くの保護者の方を取り込んでほしい。 | 本市としても、自治会・町内会単位の地域活動は地域のつながりづくりの基盤となるものと認識しており、区役所として、誰もが気軽に参加できる場の情報など、活動のきっかけとなる情報を収集・発信し、市民活動への参加の呼びかけ等により支援していく。 |
| 伊藤(廣)委員 | 絵本ボランティアとして養成した方が今後継続して活動していける仕組みをどのようにするのが大切。 | 絵本ボランティアの養成だけでなく、継続して活動していけるよう、区役所内部の行事だけでなく、将来的には地域の子育てサロンなどにも働きかけを行っていく。 |
| 村上委員 | 絵本の読み聞かせるプロジェクトの目的とは何なのか説明を加えて欲しい。 | 豊かな親子関係を築き、将来にわたって感受性の豊かなお子さんに育てていただくような形で絵本を皆さんに普及させていくというもの。 |

平成29年度生野区区政会議(第3回こどもの未来部会)
 いただいた主なご意見・ご提言(要約)と区の考え方、対応

開催日:平成30年2月16日(金)

場所:生野区役所5階 604・605会議室

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|----------|---|--|
| 新井委員 | <p>「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」の運営について、私も携わらせていただいているが、活動自体は良い取り組みなので、3ヶ月児健診以外にも活動の場をもっと広げていただきたい。</p> | <p>今、生野区として養成している絵本サポーターは、約20名います。現在は、3ヶ月児健診の時にだけ読み聞かせをしていただいておりますが、来年度には1歳6か月児健診にも広げていけるよう調整をしています。 また、今後、絵本サポーターと図書館の絵本ボランティアとで連携を図るなど、将来的には子育てサロンなど活動の場をさらに広げていきたいと考えております。</p> |
| 新井委員 | <p>今、生野区の学校再編を進められているが、大阪市が総合区や特別区となった場合、どうなるのかと不安に思う。</p> | <p>まず、総合区であれば大阪市は残ります。つまり、教育委員会が残りますので生野区単位で学校再編の調整はしていますが、当然決めたことは教育委員会がきちりと担保をして進めていくこととなります。また、総合区の区長もそれを受けて実施していくこととなります。 次に、特別区になった場合は、今までの行政の取り組み事項をどのようにして特別区に引き継ぐのかが議論されるため、全てが白紙になるようなことはないと考えております。</p> |
| 大藤区PTA会長 | <p>民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」について、短期的に見れば、中学生の学力を向上させることは必要だが、長期的には小学生にもう少し力を注いでも良いと思うが、そちらの方は何か考えがあるのか。</p> | <p>小学生向けの事業としては、「学び支援事業 模擬検定のススメ」を行い、各学校の中で模擬検定を受けられる環境を提供していくという形で行っています。 また、来年度は、学校ごとにある学校長の予算で、放課後の学びサポーターの拡充を図っていくなど、教育委員会予算とも十分タイアップしながら、子どもたちの個々の教育状況を見ながら学べる環境をきちりと支援してまいりたいと考えております。</p> |
| 海士委員 | <p>「英語や多様な文化に対する興味や関心を高める」ことを学校で特に教える必要があるのかと思う。今はSNSやスマホが普及し、子どもたちはすでに多様な文化に対する興味や関心を持っている。</p> | - |
| 新井委員 | <p>英語のプログラミング体験事業を去年私の子どもも体験させてもらったが、小中学生が対象と言うことで、学年などを問わずグループを組んで英語を体験することから、英語を学ぶだけではなく、コミュニケーションも学べる。参加している子どもたちの表情を見ても、また感想を聞いても、来て良かったという意見が出る良い事業だと思う。</p> | - |

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|-----------|---|---|
| 松田 副部長 | <p>様々な事情によって、「学校に行きたくてもいけない子ども」や「不登校の子ども」がいる。そのような子どもが、どのようにすれば学校に来るようになるのか苦慮している。そのことも考えながら、本当に機能する新しい制度を考えてほしい。</p> | <p>新たな取組として今年度から子どもサポートネット事業を実施し、不登校などさまざまな課題を抱える児童生徒と子育て世帯に対して、学校と区役所が連携して総合的な支援を行ってまいります。</p> |
| 高岡委員 | <p>学校では、一生懸命、勉強を学んでほしい。また、学力の補充ということだけでなく、手仕事など生きていく力を身につけさせてほしい。</p> | <p>次世代を担う子どもたちが社会環境の多様な変化にも柔軟に対応することができるよう、未来を生き抜く力を育んでいく必要があると考えております。このため、自立学習、キャリア教育、チーム学校の3つをキーワードに、教育環境の充実を図ってまいります。</p> |

平成30年度生野区区政会議(第1回こどもの未来部会)
 いただいた主なご意見・ご提言(要約)と区の考え方、対応

開催日:平成30年5月23日(水)

場所:生野区役所5階 502・503会議室

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|---------|---|--|
| 新井委員 | 絵本サポーターが行っている3か月児健診での絵本の読み聞かせだが、今後ほかの健診などに広げていくのか？ | 今年度から1歳6か月児健診にも広げていきたいと考えているが、4月から新しく絵本サポーターになった方が半分ぐらいいるので、今は3か月児健診での絵本の読み聞かせに慣れていただくことに専念していただいている。広げるのは9月又は10月ぐらいを目途に検討している。 |
| 伊藤(廣)委員 | 絵本の読み聞かせは、主に健診で実施することだが、将来的には各地域でのイベントなどに広げるなどの考えはあるのか？ | 現在20人の絵本サポーターを養成しているが、仕事の合間に来るなど、その20人が毎回来られる状況ではない。引き続き、絵本サポーターを養成していき、人数の確保と経験値を上げていった上で、将来的には健診以外、例えば地域でのサロンなどにも派遣したいと考えている。 |
| 村上委員 | 取組実績として模擬検定等の外部試験12小学校で実施とあるが、なぜ7校は実施しなかったのか？ | 「模擬検定のススメ」は、昨年度から実施しており、各学校が学校行事や教育活動などの1年間のスケジュールを調整して実施したこともあり、19校中12校となった。なお、今年度は16校で実施する予定となっている。まや、未実施の学校では、検定を使わずに独自の事業により効果を出している部分もあり、各学校で有効活用を検討している。 |
| 伊藤(廣)委員 | 小学校が再編された場合、統合された学校は地域防災拠点になると聞いているが、建物の維持管理はどうするのか？ | 建物の維持管理には、当然コストという問題が出てくる。そういう維持管理に係るコストを生み出しながら管理していく方法を考える必要がある。また、地域から学校がなくなると地域が衰退するという意見もある。現在、区役所ではコンサルティング会社と契約し、跡地の利活用から地域の活性化に繋げる仕組みの構想を練っている。今後、実際に学校を跡地として活用するまでの間に、地域の皆さんの意見を聞きながら、災害時の避難場所として機能する活用方法で、建物の維持管理ができ、まちが活性化する方法を検討していきたい。 |
| 伊藤(廣)委員 | 「生きるチカラを育む課外授業」と「いくの塾」は、どういう違いがあるのか？また、昔は学校の教員が放課後に残って勉強を教えてくれたが時代的にそういうことができなくなったということか？ | 「生きるチカラを育む課外授業」は、中学校1校で実施しており、学力の向上に加えて、進路の悩みなど個々の悩み相談に乗りながら自主学習の定着を図るという一歩進んだ形の事業となっており、今後効果を見ながら進めていくことになる。一方、「いくの塾」は、学校の施設を活用して塾業者が授業をして学力向上につなげる事業となっている。学校の教員による放課後の学習支援については、教員は多忙な中でしっかりと対応しているが、その補完として学びサポーターなど支援する人を配置する対応も行っている。現状として、様々な制度の中で学校が必要な制度を選択・活用して学習支援を進めている。 |

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|-------------------|---|---|
| 新井委員 | 再編にとっても、小中連携にとっても、すぐ良い影響を与えている。この事業を深く推進して欲しい。また、この事業の中に、生(性)教育も組み込んで欲しいと思う。 | 「小・中学校交流かけはし事業」は、全ての中学校区で取り組んでおり、部活動や中学校の授業の体験など、小学校から中学校に進学する前に経験していくものとなっている。生(性)教育に関しては、今年度新たに「生きるチカラまなびサポート事業」として実施させていただく予定となっている。1学期中には始めていきたいと考えている。 |
| 岩井委員 | 今、小学校で行っている「いきいき」は、いつ頃から始めて、大阪市全ての小学校で行っているのか？また、どのようなことをやっているのか？今問題になっている勉強の遅れているこどもに、勉強を教えるなどの対応はできないのか？ | 始まったのは平成に入った頃(担当局に確認したところ平成4年)で、平成13年から全小学校で実施している。基本的には、まず宿題をやって、その後は自由に遊ぶという内容で、保護者の費用負担としては、年間500円の保険料だけとなっている。夏休み、冬休みなど長期の休みでは朝から夕方まで預かってくれるので、保護者としては大変ありがたい仕組みとなっている。ただ、宿題を見るという支援はできるが、学校の授業のように勉強を教えるとなると、先生を確保する必要が生じることから現状では難しい。 |
| 清水委員 | 業績目標は参加者の達成度が低いとなっているが、むしろ学校間格差がないように全ての学校で取り組みを行うことを業績目標とするほうがよいのではないか。 | — |
| 山口 区PTA 副会長 | 取組実績には「国際語である英語への興味を向上させ、将来・経済・社会・文化など様々な分野でグローバルに対応できる若者の育成を図る」と記載されている。もちろん国際語である英語はとても大切だが、生野区の目標は「多文化共生として、グローバルに対応していく」となっている。教育という部分で学力の向上も大切だとは思いますが、幼い頃から外国の方と触れ合い、またその文化に触れることが非常に重要だと思う。 | 今生野区に増えている外国の方は、留学生の方が多く、4月に区内の日本語学校である日生日本語学園と事業協定を締結した。今後、様々な国の文化に触れる機会をつくっていきたくており、12月頃には多文化共生の触れ合いイベントを予定している。 |
| 大藤 区PTA 会長 | こどもが中学校に入学して、学習内容や授業内容を見ていると、行ける高校に行かせることに力が入っており、こどもたちが行きたい高校に行けるような内容となっていなかった。地域やPTAから声を上げたところ、学校が非常に頑張ってくれて、実際にこどもの成績が上がっていった。非常に感謝している。このような声を挙げられるのは、この区政会議に出ている人たちだと思うので、それを地域におろして前に進めて欲しい。 | — |
| 新井委員 | 「広報いくの 5月号」が届いた時に、すぐ生野区が変わった、人が見える生野区になったと正直に思った。中も見させてもらったらすごく読みやすい。何か調べたいというときに調べやすい。1つのことに特化しないで、たくさんのがわかりやすく載っている。また、この中にも私たちが今一生懸命話し合っている「こどもの未来」のことがたくさん載っている。やっぱり、会議の中で議論するだけではなく、目に見えるように広報に出してもらって、私みたいに持ち歩けるような広報ができ上がったことことにすごく感謝している。 | — |

平成30年度生野区区政会議(第2回こどもの未来部会)
 いただいた主なご意見・ご提言(要約)と区の考え方、対応

開催日:平成30年10月29日(月)

場所:生野区役所5階 502・503会議室

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|------|--|--|
| 新井委員 | <p>「生きるチカラを育む課外授業」の区予算額が73万2千円となっており、民間事業等を活用した課外授業で「いくの塾」は17万6千円となっている。この金額の差は何か教えてほしい。</p> | <p>生きるチカラを育む課外授業は、事業の中に大学生等による悩み相談を盛り込んでおり、委託事業のため、委託事業費が発生しています。</p> <p>一方、「いくの塾」は、課外授業だけとなり、必要な経費は事業者選定にかかる選定委員の経費だけで、受講者は塾代助成事業の月1万円などを活用して受講しています。また、光熱水費等については実施事業者が支払うため、経費としては掛かっていない状況となっています。</p> |
| 村上委員 | <p>こどもの貧困とは何をもって貧困と言っているのか？定義があるのか？また、現在の大阪市のこどもの貧困率は、何%ぐらいか？</p> | <p>世間一般の人が平均的に得ている収入の半分に満たない低い収入で生活している人たちを相対的貧困といい、その割合のことを相対的貧困率と言っています。今、正確な数値は出てこないが、大阪市は貧困率が高いと言われています。数年前と最新のデータでは、若干回復してきているが、これは景気が少し良くなり、雇用が回復したためと言われており、外見ではわからないが家計が苦しい家庭は7人に1人ぐらいと言われています。</p> <p>【補足説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●相対的貧困率（国民生活基礎調査より） <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年：16.1% ・平成28年：15.7% ●大阪市の困窮度（大阪市子どもの生活に関する実態調査報告書：平成29年3月より） <ul style="list-style-type: none"> ・相対的貧困率：15.2%（小5・中2のいる世帯）11.8%（5歳児のいる世帯） <p>※大阪府内全自治体における相対的貧困率：14.9%</p> |
| 清水委員 | <p>生きるチカラを育む課外授業のところで、学習の支援ではなく、学習以外に出てくる様々な生活面の悩みなどの支援についての情報をいただきたい。</p> | <p>生きるチカラを育む課外授業では、大学生等を講師として、最低月1回は相談の時間を設けることになっています。その中で、進路に対する不安や受験への不安、将来に対する不安等といった悩みを大学生が継続的にフォローしています。</p> |

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|---------|--|---|
| 新井委員 | <p>中学校の再編は進んでいるが、その他の校区ではまだ進んでない状態で、この状態をこのまま続けていくのはどうかと思う。地域や保護者の意見もそれぞれあって当然だと思ふし、賛成や反対もあって当然だと思ふが、学校設置協議会準備会を設置してするかしないかの検討をするのではなく、再編をすると決めてから学校設置協議会準備会を設置して、話し合いを進めてほしい。</p> | <p>生野区西部地域学校再編整備計画については、現在、生野区の小学校のほとんどのクラスが単学級で課題が多くなっている状況の中で、各学年2クラス以上の学校をつくることで再編に取り組んでいます。この再編は、生野区役所・教育委員会として、必ず進めていかねばならないと考えているが、保護者の方や地域の方にご理解いただく必要があることから、この間学校設置協議会準備会等、様々な説明会等を開催させていただきながら進めています。当然、地域活性化・まちづくりも一緒に考えていかないといけない問題と認識しており、学校再編後の跡地活用も含めて様々な課題があるが、学校設置協議会の中でご意見を伺いながら、しっかりと解決したうえで進めてまいります。</p> <p>なお、現在、東部地域では学校再編の説明ができていない状況にあるが、今後、再編の対象になってくる東部地域もあることから、どのように進めていくのか内部で検討しながら考えてまいります。</p> |
| 海士委員 | <p>学校の再編にははっきり言って反対。残る学校が少なすぎるし、地域のよさを無視したような感じになっている。地域を守る学校再編であってほしいし、再編により疲弊する地域も出てくる。もう一度、よく考え直していただきたい。</p> | |
| 村上委員 | <p>反対している方の登下校の距離が長くなるという“こども”の安全確保の問題は理解できるが、それ以外の地域活性化や学校跡地の問題は理解できない。第一の優先事項は、こどもたちをどのような教育環境で教育を受けさせたら良いのかであって、地域活性化や学校跡地の問題は切り離して考えるべきだと思う。</p> | |
| 伊藤(廣)委員 | <p>学校再編は、今は西部地域のみになっているが、おそらく近い将来には東部地域でも起こってくる問題だと思う。この間、話をお聞きしていても、東部地域の者は何が問題で、どういう課題を残しているのかが、さっぱりわからない。東部地域でも話をしていたら、区全体の問題として考えられると思う。</p> | |
| 松田委員 | <p>民生委員や主任児童委員には守秘義務があるので、スクリーニング会議で出た情報などは、民生委員や主任児童委員にも提供していただき、連携してほしい。</p> | |

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|---------|--|---|
| 伊藤(廣)委員 | <p>様々な子育てイベントがあるが、受け身状態でその時だけで終わってしまう。もっと自分と同じ世代のお母さん同士が横でつながれば、孤立することはないだろうと思う。何か手助けができないか。</p> | <p>現役のお母さん同士が横のつながりをつくっていけるような支援として、生野区では「持続可能なまちづくり活動支援事業」の認定事業に「いくすく子ネクト」があります。いわゆる、現役のお母さんたちの集まり「いくすく子ネクト」では、お母さんの学びの機会をつくったり、こども連れで気軽に参加できるイベントを数多く企画・実行したりしています。また、SNSを活用して、若い世代に情報の発信もしています。そういった活動を通じて、お母さん同士が横のつながりをつくっており、孤独を感じない子育て支援に取り組んでいます。</p> |
| 林委員 | <p>「いくのde育～の」のサイトができた時はすばらしいと思ったが、アクセス数を見ると8月末時点で4,300件となっており、少ないと思う。もっと広めていく必要がある。</p> | <p>「いくのde育～の」のサイトは、できた当初から比べるとアクセス数は増えているが、最近では横置きになってきています。サイトの管理運営は委託契約で行っており、委託先である「子ども・子育てプラザ」と十分に協議を行い、情報の発信方法を工夫します。</p> |
| 松田委員 | <p>情報周知方法として、SNSなどによる情報発信も大切だが育児中のお母さんは忙しく、忘れてしまったりすることが多い。紙のチラシなら冷蔵庫などに貼っておけば忘れないという話も聞くので、紙媒体の宣伝も大事だと思う。</p> | <p>また、紙媒体での広報については、広報いくの5月号において、子育て支援の特集を組むなどして、力を入れています。今後も継続して広報してまいります。</p> |

令和元年度生野区区政会議(第1回こどもの未来部会)
 いただいた主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

開催日: 令和元年5月30日(木)

場所: 生野区役所5階 502・503会議室

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|---------------|--|--|
| 緒方区PTA 副会長 | 地域によって温度差がすごく、全く知らない保護者の方もいるのが現状である。私も昨年に話を聞いて、進捗状況を知ったぐらいである。もっと話を聞く場が増えないと、今も全く知らない保護者がたくさんいると思う。 | — |
| 村上委員 | 学校設置協議会の設置目標が4中学校区で実績が3中学校区で目標未達成というのは違和感がある。その他の目標設定数値でも、初期設定値はどういう根拠に基づいている数値なのか疑問である。 | 前年度の目標から、さらに上になるような形で目標設定を行っている。当然、目標数値を上回る項目については、さらなる目標設定を掲げてまいりたい。 |
| 鈴木区PTA 副会長 | 平成30年の11月に中学校区学校設置協議会が設置されたということだが、やっぱり地域と学校は離すことができないのに、不参加の地域があるというのはとても残念なことだと思う。これからこの不参加の地域に対してはどのように働きかけていく予定にされているのか。 | 統廃合の案に納得しきれていない部分や、通学距離の問題や残された学校跡地の問題など、いろいろ不安な部分もある中で、具体的にいろいろご相談しながら、解決策を一緒に考えていくという形で話をし、皆さんに参加いただけるように取り組んでいかなければならない。特に通学路の問題に関しては、区独自のルールが適用できないかということも含めて、地域にもまた話をさせていただきたい。 |
| 新井委員 | 学校再編のことに關しては、私は区役所から聞きたいことや説明については本当に十分過ぎるぐらい聞いているが、それを説明する場もたくさんあったし、情報を取りに行かない人たちが聞いていないと言うのは、ちょっと違うのではないか。もし気になるとか自分たちのことだと思うのであれば、その場に行って話を聞くべきだし意見も出してほしい。 | — |
| 新井委員 | 再編で一つになった桃谷中学校について、それに携わった方たちの思いというのを、鶴中の閉校式のときの言葉などいろいろなものを見せてもらったときに、胸がつまるくらい皆さんの思いが詰まっていた感動した。1+1=2じゃなく3にも4にもという思いを、私たちはそこをもっと深めていかなければいけないと思うし、本当にやってよかったと思えるように、歩いていく一歩を私たちは助けていかなければいけないと思う。 | — |

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|------|---|---|
| 米川委員 | <p>学校が荒れていることについて、PTA全員で学校に毎日交代で、みんなを見守っていかうということで3年間行った結果、子どもたちも挨拶ができるようになった。保護者が見守っているという形に持っていったら、子どもの荒れているのもちょっと落ちつくのではないかと経験上思った。</p> | <p>区長には、区担当教育次長として、生野区内の公立小中学校、幼稚園に対しての学校施策の後押しをしたり評価をしたりするという役目がある。そこで、学校に出向いて校長先生の話の聞いたり、地域の方の意見も聞いたり、実際の子どもの様子を見て、助言したり、教育委員会と連携して何らかの支援をし、そういった立場にもあるので、今日いただいたご意見は、また学校のほうにも返せるようにしたい。</p> |
| 林委員 | <p>また、生徒だけではなく、先生の方も少し気になる言動がある。</p> | |
| 新井委員 | <p>生涯学習の発表について、舞台の上にいるいろいろなものを展示するというのがほかの区にはないらしく、展示されているのかというご意見をいただいたりして、本当にすばらしい、いい企画であったと思う。“いくのde育～の”の活用ということで、アクセス数も9,191件あって、皆さんがその情報を楽しみにして見ているのではないかなという、本当にこれがあらわれた数ではないか。生きるチカラを育む絵本プロジェクトの中で、「わくわくいっぱい、絵本PARKinいくの」に参加された方も673名、写真など見させていただいたが、たくさんの方が参加されていて、こういうことから子育てって楽しいと思ってくれたらよくなるんじゃないかなと思った。たくさんいろいろなイベントとかも頑張っているのを、私は単に目標達成という言葉にしてしまうのがもったいないなと逆に思っている。</p> | — |
| 伊藤委員 | <p>授業でわからないところはそのままにしておく子どもがたくさんいる。そんなときに、授業が終わったときにすぐに対応できるようなシステム、例えば人材バンクなど、教育資格を持った方とか、あるいは大学生に少しフォローしてもらえればいいかと思う。子どもたちは自分が興味のあることであれば、どんどん進んでいくので、人材バンクも含めて地域にいる有資格者、司書の方に来ていただいて、図書館はいつも開いているという形を少し考えていただけたらありがたい。</p> | — |

| 発言者 | ご提言(要約) | 区の考え方、対応(要約) |
|------|---|--------------|
| 松田委員 | <p>生野区は主任児童委員も多くて、なかなかまとめることも容易ではなく、子育てイベントをすることが難しいと思っていたところ、5年ほど前から区役所の子育て支援室のほうに協力いただいたのがきっかけとなり、こういうふうイベントをして、3回もしているのと他の区の方から言っていただけのようになり、協賛・協力していただく方がすごく増えて、こうやって人数も増えている。小学校になった途端によその区に引っ越してしまうというパターンが少し多いように思われるので、手が離れると自分らで暮らしていくというか、それがもったいないと思う。居場所という形で子どもたちがいる場所をつくってあげて、貧困だけではなくて、別にお金のあるなしに関係なく、みんなが寄れる場所をつくっていただきたいと思う。今までもずっとこのいくのっ子広場のことも絵本展等もいろいろ区役所のほうから、私たち児童委員に相談をしていただいて、たくさんこういうイベントができたことにすごく感謝している。</p> | — |
| 新井委員 | <p>大池中学校では、いろいろな国の子どもたちが来て、日本語が全く話せなくて、生野区長が推進されているやさしい日本語をもっともっと推進して広げていって、それを理解していってくれたら、救われる子どもたちが沢山いると思う。</p> <p>みんなが横のつながりを持って、やさしい日本語を推進していただけたら、いろいろな国の子どもたちも助けられるのではないかなと思う。</p> | — |